

## 第Ⅷ分野連携の活動状況報告

1. 第Ⅷ分野連携の背景（2021/12/21 委員会の資料 21-2-11 より）
  - ・ 土木学会の中長期計画である「JSCE2015」の重点課題の一つとして「学会内活動の有機的結合とその評価」が設定された。
  - ・ この課題の中で「研究分野が専門細分化され総合工学としての土木工学が見えにくくなってきている」ことから「研究委員会の統合化や**分野横断的活動の積極的な推進**」に取り組むことになった。
  - ・ 土木学会の調査研究部門に新たに「分野横断型」の分野として第Ⅷ分野を設立し、地震工学委員会、地下空間研究委員会、地球環境委員会、原子力土木委員会が新分野にそのまま移動することになった。
  
2. 原子力土木委員会としての第Ⅷ分野の活用方針（2023/12/21 委員会資料より）
  - (1) シンポジウムなどのような行事を開催するかどうかよりも、**第Ⅷ分野として何を目的に活動していくかが重要**。（シンポジウムはあくまでも手段）
  - (2) まずは第Ⅷ分野連絡会で原子力土木委員会としての考えを共有していくとともに、第Ⅷ分野として活動の目的を明確化するところに取り組む。
  - (3) 目的を明確化した上で、各委員会任せにするのではなく、第Ⅷ分野連絡会として主体的に連携を進めていく。
  - (4) 原子力土木委員会としての考え（案）
    - (ア) 共通の課題に対し、小委員会などを立ち上げる際、お互いの委員会から参加者を募り、協働で運営・管理を進めていくのが良いのではないか。
    - (イ) お互いの委員会での実施内容の相互理解を深めるため、双方の委員会や小委員会にオブザーバーとして参加するのが良いのではないか。
    - (ウ) 具体的な共通課題として、防災または設計超過事象における不確実さを有する事象による影響の表し方を軸に、第Ⅷ分野の連携を検討してみてはどうか。（例：一般防災と原子力防災の実情や課題・解決策など）
  
3. **第Ⅷ分野連携の現状**
  - ・ 2024/3/29 の第Ⅷ分野連絡会にて、2. を踏まえた議論を実施。
    - 第Ⅷ分野連携としての目的がはっきりしない中でシンポジウムの開催はふさわしくない。
    - まずは目的を明確化するところから始める必要がある。**目的を明確化するために、以前も実施した拡大連絡会という建付けを使って、情報交換会を開催してみてもどうか。**

- 各委員会から第Ⅷ分野として連携の可能性がある内容が案として提示された。
  - ◇ 地震工学委員会：能登半島地震の情報交換など
  - ◇ 地下空間研究委員会：地震防災、水防災で地下空間の活用など
  - ◇ 地球環境委員会：WG活動を通じて水や温泉、地震の議論など
  - ◇ 原子力土木委員会：一般防災と原子力防災の実情や課題・解決策など

#### 4. 第Ⅷ分野連携の今後とご協力の相談

- ・ まずは連携の目的を明確化する必要がある。そのためには各委員会がどのような取り組みをしているのか、改めて知る必要がある。
- ・ そこで、各委員会から3名程度が参加して情報交換会を開催したい。(以前、実施した拡大連絡会と同様な形)  
===情報交換会の目的===
  - お互いの活動を知る(出来合いの資料を使った各委員会の取り組み紹介)
  - 第Ⅷ分野として連携できそうな可能性を議論する
- ・ そこで、情報交換会に出席(協力)いただきたいと考えています。改めてご相談させて頂ければと考えておりますので、その際にはよろしくお願いします。

#### 【参考】

- ① 2024/3/29の第Ⅷ分野連絡会の議事録

## 第 VIII 分野連絡会 議事録

日時：2024 年 3 月 29 日（金） 13:00–14:10

場所：オンライン（Zoom）

参加者（敬称略）：

【地震工学委員会】	阿部慶太（日本大学）	R5 年度 幹事
【地下空間研究委員会】	武田 誠（中部大学）	R5 年度 幹事長
【地球環境委員会】	中畷一憲（兵庫県立大学）	第 17 期幹事長
【原子力土木委員会】	冨尾祥一（構造計画研究所）	R5-R6 年度 幹事

### 1. 前回議事録の確認

- ・ 地震工学委員会から提案があったシンポジウムに対して、開催頻度、担当、開催内容を各委員会で検討した結果について共有、議論した。
- ・ シンポジウムとなると、お互いの委員会を知る必要があるし、どのような目的で開催するのかを決める必要がある。
- ・ すでに進んでいる連携もあるし、委員会を横断して取り組んでいる内容を広げていけると良い。

### 2. 宿題について各委員会からの報告

- 1) シンポジウムは時期尚早のため、情報交換会という形はどうか？また、ここで連携しているもの（あるいは連携の可能性があるもの）、連携を考えるテーマはないか？各委員会から報告いただいた。

#### 【地震工学委員会】（資料 A）

- ・ シンポジウムと情報交換会の違いを明確にすべき。シンポジウムは一般向けにも行うが、情報交換会は委員会の関係者で行うものか。まずは目的を明確化するために情報交換会を開催するのは良いと思う。
- ・ 液状化 WG は原子力土木委員会と連携しているが、ガイドライン整備や報告まとめなど学術的な連携のため、現状のところ、第 VIII 分野の連携の可能性がある段階と考える。
- ・ 考えるテーマとしては以下。
  - 各委員会の紹介（小委や総会でまとめているものの共有）
  - 能登半島地震の情報交換（出来合いの資料を使ったもの）、地震被害調査小委員会があり、その活動共有が可能。

#### 【地下空間研究委員会】（資料 B）

- ・ 1/23 に委員会があり、情報交換会については賛成。

- 地震防災、水防災で地下空間の活用や避難対策を検討中。連携の候補として以下があるのでは。
  - 能登半島地震で被害を受けたトンネル（覆工が崩落）について、関心あり。資料共有いただきたい。（⇒その場で阿部先生より共有）
  - 大規模な台風襲来による広域避難計画においては、原子力防災での避難計画のやり方を参考できるのではないか。
  - 土木学会全国大会の共通セッションを活用してみても良いのでは。
- 連携においては、議論すべきことを議論する必要がある。拡大連絡会で何を目的にするか、という議論をしてみても良いのでは。

#### 【地球環境委員会】

- 3/4 に委員会開催した。情報交換会は良いと思う。
- すでに連携しているものはないが、連携できそうなものは以下。
  - 熊本で立ち上がっている WG（黒川温泉をメインフィールド）にて、水や温泉、地下水の話、地震の話をしてみてはどうか。

#### 【原子力土木委員会】

- 委員会では情報交換会に反対意見なし。
- すでに地震工学委員会と液状化 WG で連携しているが、阿部先生からあった通り、学術的で第Ⅷ分野での連携可能性がある点は同意見。他のテーマとしては以下。
  - 原子力分野で防災の議論をしているが、一般防災での知見を取り入れていきたい。防災という切り口で連携できれば。

#### 2) 今後について

- まずは情報交換会がよいだろう。第2回キックオフミーティングの位置付けか。
- 拡大連絡会は去年も実施している。小委の委員長レベルが参加。
  - 各委員会から3名くらいが参加してはどうか。
  - 連携できる可能性を探る目的で話をしていただく。
  - 連携の度合いをどこまでの意味合いとするか？（一緒に研究開発を目指す？学術的な連携？）
- 次回（6月頃）は一度連絡会を挟み、9月に拡大連絡会ができるとよい。

#### 3) 宿題（各委員会へ持ち帰り議論）：

- 拡大連絡会の参加者候補をピックアップ
- 参加者候補に開催趣旨を説明